

日本産業衛生学会

近畿地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会近畿地方会(事務局)
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学地域健康医学教室内
専用TEL・FAX.0744-22-1801
発行責任者・車谷典男(地方会会長)
<http://www5.ocn.ne.jp/~jsokink/>

第51回近畿産業衛生学会

	主催	日本産業衛生学会近畿地方会	
	学会長	夏目 誠 (大阪樟蔭女子大学大学院)	
日 時		平成23年11月5日(土) 9時20分開始	
会 場		奈良県文化会館(奈良市登大路町6-2)	
一 般 演 題	9:20~11:50	第1会場(2階 小ホール)	
		第2会場(2階 集会室A・B)	
		第3会場(1階 第1会議室)	
幹 事 会	12:00~12:45		
代 議 員 会	12:50~13:20		
表 彰 式	13:20~13:30	第1回近畿産業衛生学会最優秀演題賞	
特 別 講 演	13:30~14:30	座長	車谷典男(日本産業衛生学会近畿地方会会長)
		演者	尾崎紀夫(名古屋大学大学院医学系研究科)
			「うつ状態を訴える多様な職員への対応」
基 調 講 演	14:30~15:30	座長	廣部一彦(みずほファイナンシャル大阪健康開発センター所長)
		演者	夏目誠(大阪樟蔭女子大学大学院)
			「事例から知るワーキングウーマンのメンタルヘルス」
シンポジウム	15:30~17:30	「ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応」	
		座長	中西一郎(東レ(株)産業医)
			鈴木純子(日本アイ・ビー・エム(株)産業看護職)
			「ワーキングウーマンの現状ルポ」
			関根友実(産業カウンセラー・安全衛生管理者)
			「ワーキングウーマンの心と体」
			森村美奈(大阪市立大学大学院医学研究科卒後 医学教育学/総合診療センター産婦人科医)
			「産業医の立場から」
			久保とし子(久保労働衛生コンサルタント事務所所長・産業医)
			「産業看護職の立場から」
			米山貴子(大阪労災病院勤労者予防医療センター保健師)
懇 親 会	18:00~19:30	(猿沢荘)	

学会開催のご挨拶

夏目 誠

(大阪樟蔭女子大学大学院)

「明日から役に立つ産業保健」をテーマに、明日から活用できるスキルを盛りこみます。35題にのぼる多数の一般演題ありがとうございました。特別講演として、「うつ病」の第一人者である尾崎紀夫教授から「うつ状態を訴える多様な職員への対応」と題しツボをわかりやすく講演していただきます。基調講演は夏目が身近な事例を中心にポイントと話題を提供。それを受けシンポジウムは「ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応」として、最初に「つかみ」と「切り出し」を兼ね、関根友実さんが現状と課題をスケッチ。次に森村美奈産婦人科医は「子宮内膜症、出産・育児、更年期障害」など、久保とし子医師は「産業医の立場から」、米山貴子保健師は「産業看護職の立場から」報告していただきますので、フロアとの活発な交流を期待しています。懇親会は「五重塔」が水面に映える猿沢荘でトップランペッターの唐口一之さんによるライブを堪能。楽しく和める学会です。11月の奈良は紅葉が美しく、鹿さんが皆さんを待っています。

第50回近畿産業衛生学会一般演題プログラム

〈第1会場〉小ホール

9:20～9:53

第1セッション 座長 河津雄一郎（株式会社平和堂健康管理室）

(101) 健康友の会加入者の健康意識に関する検討-連続受診者と単回受診者の比較-

○平真子、高梨芳彰、堀木亜紀子、佐本利美、山添陽子、濱岡才子、湯本幸一、田中勝、池田正之、武田和夫（財団法人京都工場保健会総合健診センター）

(102) 女性検診受診率向上に向けた取り組み

○中西理恵子、西田真紀、山村ユリ（パナソニック電気（株）近畿総務センター健康管理室）

9:53～10:26

第2セッション 座長 大脇多美代（大阪産業保健推進センター）

(104) 健康診断結果からみた、労働者の睡眠が健康に与える影響

○阿部志津香、寺田哲也、嵯峨裕子、谷口俊樹、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆（財団法人近畿健康管理センター）

(105) 眼底検査において両眼と片眼に現れる所見の検討

○中村妙子¹⁾、山内勝弘¹⁾、山本知広¹⁾、池田正之¹⁾、奥沢淳治²⁾

¹⁾ 京都工場保健会

²⁾ 奥沢眼科医院

(106) 看護学生への産業保健論の教授方法についての検討-労働者インタビューを用いた理解促進の効果について-

○久井志保（兵庫大学健康科学部看護学科）

10:26～10:59

第3セッション 座長 松田裕子（シャープ健康保険組合天理健康管理センター）

(107) 職域健診後の保健指導希望状況と生活習慣の内容、労働状況、検査指標の検討

○林江美¹⁾、土手友太郎²⁾、中山紳¹⁾、渡辺美鈴¹⁾、谷本芳美¹⁾、河野公一¹⁾

¹⁾ 大阪医科大学医学部衛生学・公衆衛生学

²⁾ 大阪医科大学看護学部公衆衛生学

(108) 職域定期健康診断結果を用いた喫煙行動傾向の検証

○池田麻理子、西村嘉高、浪江弘美、村上典子、富一弘、寺田哲也、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、木村隆（財団法人近畿健康管理センター）

(109) 当社における禁煙サポート-定期健診時の取組みと3年間のフォローアップ結果-

○川口恭子、長畑優、吹本小百合、南未来、梅本優子、森雅子、寺原京子、平田真以子、館美加、大石佳世子、廣部一彦（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター）

10:59～11:43

第4セッション 座長 伊藤正人（パナソニック健保 健康管理センター）

(110) 特定保健指導受講者について経年の生活習慣の変化

○加藤由加、小島さよこ（医療法人あけぼの会ヘルスウエイブセンター）

(111) 特定保健指導プログラムの継続的な見直し

○小倉由佳梨、村田理絵、畑中知子、上原亮子、櫻木園子、森口次郎、池田正之（財団法人京都工場保健会）

(112) 総合大学職員の健康診断における腹囲と内臓脂肪量に基づく生活習慣の改善意思状況および検査結果の検討

○中山紳¹⁾、林江美¹⁾、高崎恭輔¹⁾、杉浦裕美子¹⁾、藤田愛子¹⁾、草開俊之¹⁾、林田一志¹⁾、横山浩誉²⁾、土手友太郎²⁾、河野公一¹⁾

¹⁾ 大阪医科大学医学部衛生学・公衆衛生学

²⁾ 大阪医科大学看護学部公衆衛生学

(113) 職域におけるメタボリックシンドローム対策-男性労働者における運動量と内臓脂肪蓄積に関する検討-

○平田真以子、長畑優、吹本小百合、南未来、梅本優子、森雅子、寺原京子、川口恭子、館美加、大石佳世子、廣部一彦（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター）

〈第2会場〉集会室A・B

9:20～9:53

第1セッション 座長 森岡郁晴（和歌山県立医科大学保健看護学部）

(201) 非正規雇用は就労女性の妊娠を理由とする退職の危険因子である

○大原賢了、鴻池義純、岡本希、富岡公子、佐伯圭吾、
車谷典男（奈良県立医科大学地域健康医学講座）

(202) 女性社員支援体制の取り組みについて

○宇都宮理恵、佐藤朱美、柳本裕子、上原新一郎
（JR西日本健康増進センター看護室）

(203) 管理監督者用メンタルeラーニング実施報告

○中井栄、田中幸子、朝日若菜、佐藤祐子、村嶋美保子、
藤井由香子、阪本善邦
（パナソニック健康保険組合健康開発センター）

9:53 ~ 10:37

第2セッション 座長 井上幸紀（大阪市立大学神経精神医学）

(204) 精神疾患を予見するための問診項目の検証（第2報）

○嵯峨裕子、園伊知郎、寺田哲也、阿部志津香、恵千
恵子、谷口俊樹、磯島康史、阪上皖庸、藤田正憲、
木村隆（財団法人近畿健康管理センター）

(205) 行動療法の経験・減量のためのシャープスマートプロジェクト

○横山享子¹⁾、中村歩美²⁾、太田博之³⁾

¹⁾ シャープ健康保険組合本社健康管理室

²⁾ シャープ健康保険組合田辺健康管理室

³⁾ ライフスタイル研究所

(206) 女性保健医療従事者の月経困難症の実態と関連要因の検討

○富岡公子、佐伯圭吾、岡本希、車谷典男
（奈良県立医科大学地域健康医学教室）

(207) 夜間勤務、シフトワークと種々の疾病の間違ひについて（第4報）

○矢倉宏祐（りんくう総合医療センター内科）

10:37 ~ 11:21

第3セッション 座長 丸山総一郎（神戸親和女子大学大学院）

(208) 認知行動療法の予防的アプローチ～ストレスマネジメント心理教育の実践と効果測定～

○関根友実、夏目誠

（大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学専攻）

(209) 企業管理者の問題解決型グループカウンセリング介入効果の検討

○山本美奈子、宗像恒次（筑波大学大学院人間総合科学研究科）

(211) 当社のメンタルヘルス対策としての復職プログラム実施状況

○三嶋正芳¹⁾、清水政彦¹⁾、杉田義郎²⁾、玉木登志枝¹⁾、
田畑由美¹⁾、大庭美津子¹⁾、石垣洋子¹⁾、岩田律子¹⁾、
伊藤繁治¹⁾

¹⁾ ダイハツ工業株式会社ダイハツ保健センター

²⁾ 大阪大学保健センター

〈第3会場〉第1会議室

9:20 ~ 9:53

第1セッション 座長 小泉昭夫（京都大学大学院医学研究科 社会健康医学専攻 環境衛生学分野）

(301) Harvard School of Public Health のSummer Session Programについて

○藤本圭一、白田寛、河野公一

（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室）

(302) 一般住民を対象にしたカドミウム負荷調査に際しての既往歴の評価

○池田正之、森口次郎、櫻井園子、大橋史子

（（財）京都工場保健会）

(303) コリジョン-ICP/MSによる高精度な低濃度尿中カドミウム測定法の開発

○圓藤陽子¹⁾、山中健三²⁾、圓藤吟史³⁾

¹⁾ 関西労災病院・産業中毒研究センター、

²⁾ 日本大学・薬学部・環境衛生学、

³⁾ 大阪市立大学・医学部・産業医学

9:53 ~ 10:26

第2セッション 座長 西尾久英（神戸大学大学院医学研究科地域社会医学・健康科学講座疫学分野）

(304) 希土類曝露ラットの尿中希土類元素排泄量測定の研究

○白田寛、河野令、喜多村泰博、木村基士、津田侑子、
小見山麻紀、河野公一

（大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室）

(305) 大気中短鎖塩素化パラフィンの数値シミュレーション

○新添多聞¹⁾、原田浩二¹⁾、石川裕彦²⁾、小泉昭夫¹⁾

¹⁾ 京都大学大学院医学研究科環境衛生学

²⁾ 京都大学防災研究所気象・水象災害

(306) 日中韓の食事試料中の短鎖塩素化パラフィンとその

汚染源の探索

○原田浩二¹⁾、高菅卓三²⁾、人見敏明¹⁾、王培玉³⁾、
小泉昭夫¹⁾

¹⁾ 京都大学医学研究科環境衛生学

²⁾ 鳥津テクニサーチ

³⁾ 北京大学

10:26 ~ 11:10

**第3セッション 座長 竹下達也 (和歌山県立医科大学
医学部公衆衛生学教室)**

(307) 炭素鎖の異なる有機フッ素カルボン酸における体内動態の相違

○藤井由希子、原田浩二、小泉昭夫

(京都大学医学研究科環境衛生学分野)

(308) 有機フッ素カルボン酸 (C6-12) の体内動態

○小泉昭夫、藤井由希子、原田浩二

(京都大学医学研究科環境衛生学分野)

(309) 産業分野で使用される有害化学物質スクリーニングとしてのニワトリB₁₂リンパ球DT40によるバイオアッセイの確立

○清水宏泰¹⁾、栗田晃宏¹⁾、Mohiuddin¹⁾、武田俊一²⁾、
河野公一¹⁾

¹⁾ 大阪医科大学衛生学・公衆衛生学教室

²⁾ 京都大学医学研究科放射線遺伝学教室

(310) MDR2及びMDR1a/b-KOマウスにおけるPFOAの体内動態に関する研究

○足立歩、岡本かほり、古川和良、藤井由希子、穂友絹美代、人見敏明、原田浩二、小泉昭夫

(京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻環境衛生学研究室)

11:10 ~ 11:43

第4セッション 座長 伊木雅之 (近畿大学医学部公衆衛生学教室)

(311) VDT健診受診者への効果的な労働衛生教育について (初回受診者と2回以上の受診者を比較して)

○細井麻衣 (パナソニック健康保険組合産業衛生科学センター)

(312) 熱帯気候下で手腕振動曝露歴を有する林業従事者を対象にした調査研究 (第一報)

○福元仁¹⁾、前田節雄²⁾、竹村重輝¹⁾、宮井信行³⁾、吉益光一¹⁾、宮下和久¹⁾

¹⁾ 和歌山県立医科大学医学部衛生学

²⁾ 近畿大学総合社会学部

³⁾ 和歌山県立医科大学保健看護学部

(313) 全身・手腕振動のEU Directivesと我が国の振動規準の状況

○前田節雄 (近畿大学総合社会学部総合社会学科)

幹事会 集会室A・B 12:00 ~ 12:45

代議員会 集会室A・B 12:50 ~ 13:20

表彰式 小ホール 13:20 ~ 13:30

特別講演 小ホール 13:30 ~ 14:30

座長 車谷典男 (日本産業衛生学会近畿地方会会長)

演者 尾崎紀夫 (名古屋大学大学院医学系研究科)

「うつ状態を訴える多様な職員への対応」

基調講演 小ホール 14:30 ~ 15:30

座長 廣部一彦 (みずほファイナンシャル大阪健康開発センター所長)

演者 夏目誠 (大阪樟蔭女子大学大学院)

「事例から知るワーキングウーマンのメンタルヘルス」

シンポジウム 小ホール 15:30 ~ 17:30

「ワーキングウーマンのメンタルヘルスの現状と課題、そして対応」

座長 中西一郎 (東レ(株)産業医)

鈴木純子 (日本アイ・ピー・エム(株)産業看護職)

「ワーキングウーマンの現状ルポ」

関根友実 (産業カウンセラー・安全衛生管理者)

「ワーキングウーマンの心と体」

森村美奈 (大阪市立大学大学院医学研究科卒後医学教育学/総合診療センター産婦人科医)

「産業医の立場から」

久保とし子 (久保労働衛生コンサルタント事務所所長・産業医)

「産業看護職の立場から」

米山貴子 (大阪労災病院勤労者予防医療センター保健師)

懇親会 猿沢荘3F「わかくさ」 18:00 ~ 19:30

第51回近畿産業衛生学会

1. 会場へのアクセス



〒630-8213
 奈良市登大路町6-2
 奈良県文化会館
http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-1717.htm

会場への交通機関
 近鉄奈良駅から徒歩5分

2. 参加手続

学会参加申し込みは、学会当日受付いたします。事前申し込みは必要ありません。

- 1) 受付は2F小ホール前にて、9時より行います（開館は9時です）。
- 2) 参加費：日本産業衛生学会学会員1,000円（日医認定産業医単位希望の場合も同額）
 学会員以外2,000円（日医認定産業医単位希望の場合は3,000円）

3. 一般口演の演者の方へ

- 1) 1 演題につき11分（口演7分+質疑応答4分）です。会場内に次演者席を用意しています。
- 2) 発表用ファイル（Windows Power Point2003および2007）は、当日混乱をきたすことが予想されるため、可能であれば10月28日（金）までにE-mailで送信するか、CD-Rを事務局までお送りください。

3. 幹事会および代議員会

幹事会：12：00から、代議員会は12：45から、ともに2F集会室A・Bにて行います。

4. 第1回近畿産業衛生学会優秀演題賞

事前提出抄録と当日の口演発表に基づき原則として1題を選考し、午後の特別講演に先立ち発表、表彰いたします。

5. 懇親会

学会終了後、猿沢荘（3F「わかくさ」）にて懇親会を行います（奈良県文化会館より徒歩8分）。
 会費：3,000円（懇親会場で受け付けます）

6. 認定産業医の方へ

特別講演・基調講演・シンポジウムに関しては、日本医師会認定産業医制度生涯研修（専門）4単位を申請中です。ご希望の方は当日受付してください。

※特別講演1単位、基調講演1単位、シンポジウム2単位の予定です。

7. 産業看護職の方へ

特別講演・基調講演・シンポジウムに関しては、日本産業衛生学会看護職継続教育（実力アップコース）の単位認定を申請中です。ご希望の方は当日受付してください。

8. 学会事務局（問合せ先）

第51回近畿産業衛生学会事務局
 〒639-0298 奈良県香芝市関屋958 大阪樟蔭女子大学心理学部臨床心理学科夏目研究室内
 0745-71-3137（内線565） FAX0745-71-3142
 E-mail：kinki-sangyo@osaka-shoin.ac.jp

長浜キャノン株式会社 産業医募集のお知らせ

募集職種 専属産業医（嘱託社員）
勤務地 長浜キャノン株式会社 健康管理室
 〒526-0001 滋賀県長浜市国友町1280
勤務時間 7：55～17：00
休日・休暇 年間休日125日（週休2日）年末年始、5月、8月に各一週間程度連休あり
採用時期 応相談
待遇等 委細面談の上

長浜キャノンでは専属産業医を募集しています。
 琵琶湖や長浜城など史跡や名勝に囲まれ、全国の住みやすい街No.1に選ばれた事のある街、長浜で活躍してみませんか。
 皆様のご応募をお待ちしています。

【お問い合わせ先】

長浜キャノン株式会社 安全衛生課 担当 伊吹
 TEL 0749-65-2783
 E-mail ibuki.hiroshi@canon-nagahama.co.jp

大阪マラソン2011 オフィシャルドリンク 「アミノバリュー4000」



BCAA 4000mg + 電解質含有

高濃度BCAAが
 コンディショニングを整え、
 運動を続けていくあなたを
 サポートします。



BODY PROTECT
 Amino-Value

大阪製菓株式会社大阪支店
 〒530-0005 大阪市北区中之島6-2-40
 TEL:06-6441-6532

産業医部会研修会報告

第16回 近畿産業医部会研修会を終えて

実行委員長

森岡郁晴



平成23年9月3日、大阪市立大学医学部学舎にて「働く人々への健康支援」をテーマに第16回近畿産業医部会研修会を開催しました。台風12号が近づく中の開催になりましたが、数多くの参加者がありました(参加者141名)。

産業医部会長の山田誠二先生からご挨拶をいただいた後、和歌山労働基準監督署長の宮崎龍雄先生から、「労働衛生の現状と課題 最近の法改正を含めて」というテーマで教育講演を頂戴しました。労働衛生行政の課題を種々の統計資料を用いてお話しくださいました。がんの部位別標準化死亡比からみた府県の特徴を整理され、新しい視点を示されました。また、産業医に必要な法令改正について分かりやすくご講演いただきました。

シンポジウムは「特定保健指導がもたらした変化」をテーマにパナソニック健康保険組合健康開発センターの阪本善邦先生と筆者で座長を行い、阪本善邦先生からは健康保険組合の立場として、定期健康診断を基軸とした健康管理に特定健診、特定保健指導を組み込んでいる現状などをお話しくださいました。和歌山健康センターの岩根幹能先生からは産業医の立場として、特定保健指導の有効性を体重変化を指標にして保健指導の完遂の状況から整理した結果をご紹介いただきました。近畿労働金庫健康管理センターの原共乃先生からは企業内産業看護職の立場として、これまでの面談と特定保健指導を合わせて活用していくことの重要性についてお話しくださいました。京都工場保健会の井手陽子先生からは小規模事業場を支援する産業看護職の立場として、健康管理ができていなかった事業場で健康診断を受ける機会が得られるようになったことを紹介いただきました。全体討議では現状に問題点も多いものの、プラスの変化もあり、もたらした変化はスタッフがどうかかわるのかによって大きく異なることが確認できました。

最後に、研修会の準備・運営にご支援・ご協力いただいた関係者の皆様に深謝申し上げます。

看護部会研修会報告

近畿産業看護部会定例研修会を受講して

参天製薬(株)滋賀工場健康支援室
保健師

中田 ゆかり



7/9に開催された近畿産業看護部会「2011年度第1回定例研修会」に参加しました。とても暑い日でしたが、会場はほぼ満席で、産業看護職の皆様の熱意と向学心を改めて強く感じさせられました。それもそのはずで、今回のテーマは「労働安全衛生マネジメント(以下、OSHMS)のポイント～産業看護職の役割～」と企業ではリスクマネジメントやCSRといった意識が向上しており、産業看護職も「衛生」という観点でとても興味深いものだったからだと思います。内容は講義と話題提供での2部構成で、まずは鳥村紘二先生のご講義をお聞きし、その後話題提供として三菱樹脂工業(株)西川幸位保健師とキャノンマーケティングジャパン(株)中村千賀保健師から実践活動をお聞きしました。

鳥村先生のご講義では、「安全衛生目標」の設定は客観的に評価しやすいよう、できるだけ具体的に数値化すること、目標には「実施目標」と「達成目標」を作っておくこと、についてご教示いただき、またOSHMSにおける産業看護職の役割について『産業保健生涯教育ガイドライン』を基に16のステップから業務に落とし込んでご説明いただきました。

話題提供では西川保健師からポピュレーションアプローチとしての職場対抗ウォーキングの実践活動があり、PDCAを回すことによって徐々に参加率をアップさせ、さらに行動変容ステージモデルでの変化(実行期、維持期の率が向上)や血液データの向上等の効果についてお聞きし、また中村保健師からは全社的な活動として数年にわたって健診データ分析結果から健康管理マネジメントシステムを実践し、PDCAを回しながらアプローチ方法を改善していくという活動をお聞きしました。

両保健師の実践活動はまさしくOSHMSが導入された見本となる活動で本当に感銘を受けました。まだまだOSHMSは「安全」が主流となっており、「衛生」は長期的に活動しないと結果が出ないことでどうしても遅れを取ってしまいがちですが、日々の活動をPDCAに当てはめて明確にゴールを決定し、「見える化」して活動していく重要性を再認識し、「職場に戻って活用していこう」と意識づけになったとてもよい研修でした。

産業看護部会のお知らせ

1. 第2回定例研修会

日 時：12月3日（土）午後1時30分～4時50分

会 場：エルおおさか本館 6階 大会議室

テーマ：近畿産業看護部会フォーラム

企業のリスクマネジメントに産業看護職の専門性をどのように発揮するか

～過重労働対策を通して考える～

目的：2011年5月に開催された日本産業衛生学会産業看護フォーラムでは、看護職が産業保健専門職の一員として、事業者と労働者にコミットメントし、メンタルヘルス対策や過重労働対策等を通してどのようにリスクマネジメントができるのかについて、様々な立場から報告がなされた。これを踏まえ、近畿産業看護部会では、産業看護職がどのような専門性を身につければその強みを生かした仕事ができるのか、また、そのための課題は何か等、現場を取り巻く状況を踏まえながら、具体的な展開方法について講師の講演及び、実際の活動報告を通して検討する。

講 師：和歌山医科大学 森岡郁晴教授

「過重労働で組織と取り組むとき、産業看護職は誰とどう動くのか」

活動報告：日本アイ・ピー・エム(株) 鈴木純子保健師

(株)ワールド 雑賀佳世子保健師

※産業看護職継続教育実力アップ単位申請予定

2. 近畿産業看護部会について

【入会手続き】

日本産業衛生学会に入会…>産業看護部会に入会…>近畿地方会に入会…>近畿産業看護部会に登録

【年会費】

日本産業衛生学会：¥10,000、

産業看護部会：¥2,000、

近畿地方会：¥2,000

【入会のメリット】

近畿産業看護部会定例研修会への優先案内、日本産業衛生学会誌 6回/年 産業看護部会ニュース（産業看護フォーラム） 2回/年、近畿地方会ニュース 4回/年 各ホームページにて研修会や勉強会のニュース、産業衛生に関する最新のニュースや法整備の動きなど、情報提供あり。年2回の学会・全国協議会への参加・発表、また近畿地方会学会への参加・発表などの機会あり。一緒に産業看護の更なる質の向上を目指しましょう。

技術部会総会と討論会のお知らせ

講演会テーマ：労働衛生分野における国際協力と期待と皮膚の老化とケアー

主 催：日本産業衛生学会・近畿地方会・技術部会

日 時：平成23年10月22日（土曜）13時～17時

場 所：貸会議室 ユーズ・ツウ（大阪ヒルトンホテル、四ツ橋筋側）西梅田駅4-B出口すぐ
電話06-6345-1326

講演名・講演者（下記に示す講演名は現在仮称です）

1. 日本の労働衛生分野の国際協力について
国際協力機構（JICA）寺門 雅代
2. 日本の労働衛生管理（作業環境管理を中心に）について
産業医科大学 熊谷 信二
3. わが国（研修生出身国）の労働衛生管理の現状と日本への期待
JICA研修生（来日後に決定）
4. わが国（研修生出身国）の労働衛生管理の現状と日本への期待
JICA研修生（来日後に決定）
座長・司会者：国際協力機構 寺門雅代
中央労働災害防止協会：水沼一典

特別講演

皮膚の老化とケアー

元 資生堂研究員 坂本 哲夫

座長：和歌山医科大学 宮下 和久

終了後技術部会総会予定

討論会にはどなたでも参加できます。多くの方の参加をお待ちしています。

技術部会 世話役 河合 俊夫

研究会のお知らせ

日本産業衛生学会 第53回産業精神衛生研究会(第1報)

日 時：平成24年3月3日(土)9:30～17:00

会 場：エル・シアター（エル・おおさか・府立労働センター 2F）
大阪市中央区北浜東3-14

研究会会長：廣部 一彦

（みずほフィナンシャルグループ大阪健康開発センター）

テ ー マ：「職域メンタルヘルスの未来展望

～変わっていくもの、変えなくてはいけないもの～」

内 容：一般演題、パネルディスカッション、ランチョンセミナー、特別講演、シンポジウム

参 加 費：3,000円（日本産業衛生学会員）

共 催：(独)大阪産業保健推進センター、大阪府医師会

認定単位：日本医師会認定産業医 単位

日本産業衛生学会 産業看護職継続教育
システム単位



私たちの職場 (23)

日本生命本店健康管理所

産業医 藤岡 滋典

日本生命は、1889年(明治22年)に創業した生命保険会社で、業界のリーディングカンパニーとして1昨年創立120周年を迎えました。主な事業内容は、個人および企業向け各種保険商品の引受・保全サービス、受託資産の運用として有価証券投資・貸付・不動産投資などで、職員数は約7万名(うち内勤職員1万9千名、営業職員5万1千名)です。本部機構は創業の地大阪(本店)と東京(本部)にあり、それぞれ約5千名、4千6百名が勤務しています。また、全国には北海道から沖縄まで数百名~千名規模の支社が117、支社管轄下の数十名規模の営業拠点が1560箇所あります。

当社の労働衛生管理体制は、大阪本店、東京本部、各支社が事業所単位となります。大阪と東京には診療機能を持つ健康管理所があり、それぞれ地区職員の健康診断や事後措置、種々の健康管理業務を行うとともに、生命保険診査医が産業医を兼務する全国支社も含めて、当社全体の産業保健業務を統括しています。筆者が勤務する本店健康管理所は、大阪淀屋橋の日本生命本店ビルにあり、専属産業医、看護職、薬剤師、放射線技師、歯科医師、歯科衛生士、事務職の計22名の常勤スタッフ、および非常勤の医師16名(内科、心療内科、眼科、整形外科)、産業カウンセラー1名、管理栄養士1名が約5千名の本店職員の健康管理さらに西日本支社の統括管理を担当しています。健康診断の事後措置としての保健指導や健康教育は、会員の方々も種々の方法で実施されていることと思いますが、当所では、生活習慣病を中心に個別指導のほか集団での指導や社内イントラネットを活用した健康教育を実施しており、その概要をご紹介します。

(1) 集団指導による健康教育

参加希望者に対して医師、管理栄養士、運動指導士などによる生活習慣病の概要、食事・運動療法についてのレクチャー、実演指導を行い、その後、産業看護職が定期的に個々に職員の実践状況を確認し指導します。集団指導では、講義に食事や運動をしながらの実演をまじえることにより、生活習慣病への理解が深まるとともに、参加者が一体となりともに頑張ろうという連帯感が生まれ動機付けも強化される面があり、私たちの経験では1回の教室でも有意な検査値の改善を認めました。

(2) 社内イントラネットを用いた健康教育

最近では社内イントラネットの普及という職場環境の変化に伴い、イントラネットを活用した健康管理も行っています。健康管理所ホームページの健康情報欄では、各疾患の概念や予防などの情報を全職員に提供

する一方、有所見者に対する保健指導・健康教育も実施しています。テーマは生活習慣病、禁煙指導などが主ですが、産業保健スタッフ、管理栄養士が参加者と定期的に双方向にメール交換し、体重変化、運動量、食生活、目標達成状況、ライフスタイルの状況を評価し、参加者に励ましやアドバイスをを行い生活習慣病の改善を図ります。

イントラネット健康教育は、参加者の顔が見えずコミュニケーションが取りにくいといった面がありますが、集団指導にはない時間に拘束されずプライバシーが守られる等のメリットもあり、半年間実施した際には有意な改善効果を認めました。当所での生活習慣病健康教育の一端を述べましたが、動脈硬化症、メタボリックシンドロームが注目される今日、今後さらに工夫を加えより有用なものにして行きたいと思っています。



会員の声



復職支援プログラムにおけるホース・セラピー（馬介在療法）の導入

関西福祉科学大学大学院／EAP研究所

長見 まき子

本学EAP研究所では2004年から医療法人あけぼの会との産学医連携により復職支援プログラム「SPICE」を実施し、プログラム開発と効果評価研究を進めている。SPICEでは、言語的コミュニケーションおよび身体活動をベースにカリキュラムを構成してきたが、昨年から新たなアプローチとして、アニマルセラピーの手法であるホース・セラピーを導入した。ホース・セラピーは古くは古代ギリシャで紀元前500年頃に戦争で負傷した兵士の身体機能の回復あるいは気分の高揚のために、患者を馬に乗せる試みが行われ治療効果を見出したという記録が残っている。日本で行われているホース・セラピーは、楽しみながら乗馬することが第一の目的とされるが、犬などの小動物によるアニマルセラピーとは異なり、馬のような大動物と心を通わせ制御すること、さらに騎乗時の視線が高くなることなどから、結果として達成感や満足感を得ることができ、自信の回復・自己効力感の向上に効果があるといわれている。SPICEへの導入に際しても、これらの心理的効果への期待はもちろん、エネルギーの回復や、馬や自然との関わりを通じた体験により視野を広げることも目的とした。

今年度も参加者を募り、5月～6月の5週にわたり週1回3時間程度、枚方市のセラピー牧場に出かけて、ホース・セラピーの講義、騎乗体験、曳き馬体験、えさやり、牧場作業などを行った。騎乗体験では、回を重ねるごとに目に見えて馬の操作が上達した。参加者が背筋を伸ばし晴れやかな笑顔で騎乗している様子が印象的であり、さらに木陰でのチータイムでは馬の話で盛り上がり会話が途切れることがなかった。そのような参加者の様子からセラピーの効果が実感されたが、その他効果評価に関しては、アンケート、心理的指標（自己効力感、抑うつ度）、生理的指標（自律神経機能検査、唾液中コルチゾール）を用いて実施している。

今後もホース・セラピーを継続実施していく予定であるが、課題としてデータの蓄積による定量的な効果評価、さらに適用基準の明確化があげられる。いずれにしても、ホース・セラピーには復職支援プログラムのカリキュラムの一つとして大いにその効果を期待している。



自己紹介

兵庫大学健康科学部看護学科

専任講師 久井 志保

縁あって産業保健から大学の看護学科教員へと転身し、早いもので今年で6年目となります。飛び込んだ当初は、これまで過ごしてきた職場とはかなり異なる文化に驚くことも多々ありましたが徐々に慣れてきました。しかし、なかなか慣れない言葉がありました。それは『若手』と呼ばれることです。

私の『若手』という言葉のイメージは、20代～30代前半までです。私は2度目の成人式も終わり、自分の子どもの成人式の準備を始める年頃ですので、『若手』と呼ばれることに非常に抵抗がありました。「諸先輩と比較したら確かに若い」などと冷静に考えたり、気にしないように努めたりしたのですが、引がかかった気持ちはなかなか払拭できずにはいました。おそらく『若手』と呼ばれるようになった時期が、体力的な衰えを感じ始めた時期と重なったことで余計に気になる言葉になっていたと思います。

しかし見方を変えることができ、少し冷静に受け入れられるようになりました。その見方というのは、「今までは『足し算』の世界にいたけれど、今私がいる組織は『引き算』の世界である」という見方です。『足し算』の世界とは、誕生や入学、就職などを起点として成長をみることを意味します。『引き算』の世界とは、卒業や到達を基準として成長の課題をみることを意味します。このような見方をする中で、思考の違いを受け止めることができるようになりました。

きっかけとなったのは学生との会話でした。私は地域看護学を担当しており、4年生のI期に地域看護学実習の指導を行うため、私が研究室にいる日は毎日のように4年生がやってきます。先日、いつものように学生たちと話をしていた時に、ある学生が「看護という命に携わる専門の立場だから完璧にできないといけないうことですよ。いつになったらできるようになるんだろう。」とつぶやきました。それを聞いて『足し算・引き算の文化』について気づいたのです。『未熟』と扱われることの多い学生ですが、4年間の変化は非常に大きく、確かに成長しています。私もまだまだ未熟です。学生に負けないう「もっと足していかななくては」……。

会員の声



診療中心型？ 健診中心型？

(株)竹中工務店
大阪本店診療所
瀧本 忠司

私事で恐縮ですが、今年で産業医生活15年目を迎えました。これもひとえに日本産業衛生学会員の皆様や、産業保健関係者の皆様のおかげと感謝しております。さて私は、以前お世話になりましたNTT、ダイハツ工業(株)を経て、平成22年4月から(株)竹中工務店大阪本店診療所に勤務しています。これまでと変わったことといえば、まず通勤です。弊社大阪本店の最寄り駅は地下鉄御堂筋線本町駅です。これまでの京都府乙訓郡や池田市への通勤に比べますと、地下鉄御堂筋線(特に梅田～淀屋橋間)の混雑はなかなか大変です。ラッシュ時にはカバンから手を離しても、そのまま落ちないこともあります。この頃は少し早めに家を出て、通勤混雑の緩和に協力(?)しています。

さて業務面ですが、NTTやダイハツ工業(株)では、定期健診は内部で行っていました。しかし当診療所は4名体制(産業医、薬剤師、看護師、医療事務、各1名)であり、定期健診は外部に委託しています。その代わりに、診療のウエイトが大きくなっています。もちろん超過時間外勤務者健診、有機溶剤健診、電離放射線健診、海外派遣労働者健診、雇い入れ時健診などは内部で行っています。また定期健診の事後措置や保健指導なども行っています。

(株)産業医大ソリューションズ様のホームページを拝見しますと、「OSHサポート」では産業医の業務を大きく3タイプに分けておられます。まず「診療中心型」は企業内診療所での診療のみの場合が多いが、健康診断及び事後措置を担当している場合あり。「健診中心型」は企業内クリニックで診療・治療とともに、健康診断及び事後措置を行い、保健指導、健康管理の総括管理に関与。さらに「経営参画型」は健康・ヒトの専門家の立場から企業経営に参画。予防医学的なアプローチとして保健指導、健康管理の総括管理を実行。企業のリスク管理に参画すると分類されています。

当診療所の場合は、さしずめ「診療中心型」に分類されるかと存じますが、診療や健診のみに埋没することなく、リスク管理などの面からも有益な提言ができるように、日々の実践の中で考え、学んで行きたいとします。今後とも宜しくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

第10回近畿臨床産業医学

フォーラム報告

当番世話人 岡田 邦夫

日時:平成23年9月7日(水)

場所:ホテルモンテ大阪

テーマ:「運転業務と産業医学」

上記テーマのもと、まず、当番世話人から、テーマの主旨説明を行い、引き続きそれぞれの専門の立場から、運転業務従事者の健康管理と就業制限について話題を提供していただいた。

まず、精神科医の立場として、大阪市大精神医学准教授 井上幸紀先生から、てんかんを有する場合の運転の可否、ならびにうつ病などの精神疾患における薬物と運転業務についての説明をしていただきました。次に、内科医の立場として、京都工場保健会診療所長の武田和夫先生から、健診機関で実施しているタクシー運転手の健康診断結果から、高血圧や糖尿病の病態によって運転業務や深夜勤務を制限しなければならない基準について解説していただき、高血圧やその合併症リスクについて解説していただきました。

運転業務に最も重要な視力や視野については、NTT西日本大阪病院前眼科部長 福田全克先生から、免許更新時の適性検査項目である視力、ならびに視野検査についての基準や見逃されている問題点について詳しく説明をしていただきました。最後に、西日本旅客鉄道健康増進センターの上原新一郎先生から、産業医の視点から、アルコールと運転業務、ならびに乗車前のアルコール対策の実際的な取組内容の説明がありました。

従業員による交通災害は、第三者を巻き込むこと危険性を孕んでおり、従業員の健康ならびに安全はもとより、企業のリスクマネジメントとしてその予防は極めて重要であることはいまでもありません。運転業務従事者がその健康状況から運転ができるかどうかの判断をなすことは、まさしく産業医学の本質ではないかと思えます。日頃従事している健康診断や健康相談等から、担当する従業員の健康に配慮して、より安全な運転業務を遂行するための支援が産業保健スタッフに要求されていることが明らかになったものと思います。問診や診察、医学的検査で患者さんの病気を診断するのと同じように、健康診断や健康相談などの結果から、従業員がその業務を安全に遂行できるかを判断し、的確な意見を述べることの重要性について本フォーラムで実感してもらえたように感じました。

本フォーラムで貴重は発表をしていただいた先生方に感謝の意を表します。

また、当日は111名の皆様にご参加していただきました。

最後に本フォーラム開催にあたり事務局として労をおとりいただきましたグラクソ・スミスクライン株式会社様に感謝の意を表します。

日本産業衛生学会近畿地方会
2011年度第2回幹事会議事録

日時：2011年9月3日(土) 11:00～12:45

場所：大阪市立大学医学部学舎 18階会議室

出席：車谷・清田・圓藤・伊木・大脇・岡田・木村・
竹村・土手・夏目・中西・西尾・廣部・藤岡・
宮上・森岡(順不同・敬称略)

欠席：植本(監事)・廣田(監事)・伊藤・河合・久保・
小泉・鮫島・鈴木・埜田・宮下・山田
(順不同・敬称略)

1. 審議事項

(1) 顕彰制度

車谷会長からの資料に基づく説明のあと、文言の定義や条文についての論議があり、「近畿産業衛生学会優秀演題賞選考規程」(右頁参照)が承認された。本年11月の第51回近畿産業衛生学会から適用することも承認された。

(2) 本部新定款承認にともなう地方会の検討課題

宮上規定類等検討委員会委員長から資料に基づき説明があった。近畿地方会では準会員は設けないことが再確認された。本部定款案の承認に伴い、近畿地方会会則は役員選挙・変更がある平成24年度を目指して改正することとなった。

(3) 役員選挙制度の改正について

土手委員長から改正案(現段階では3案)について説明があった。ネット選挙の改正案については、一画面のディスプレイ表示される人数に限りがあるため、スクロールを多くしなければならず被選挙人の名簿記載順によっては不公平が出る可能性が指摘され、県別に掲載するなどの工夫が必要との意見があった。また、代議員は推薦が不要ではとの意見、会長と監事については被推薦者の意思確認が必要ではとの意見が出された。各改正案のメリット・デメリットを次回幹事会で審議することとなった。

2. 報告事項

(1) 第51回近畿産業衛生学会(2011年11月5日・奈良)の進捗状況

夏目会長から学会のちらし(添付③)と演題申し込み一覧に基づき報告があった。37題の一般演題の申し込みがあったこと、順調に準備が進んでいることが紹介された。

(2) 第52回近畿産業衛生学会(2012年和歌山)の準備状況

森岡会長から、11月に和歌山医大保健看護学部で開催すべく調整中との報告があった。

(3) 次々回第53回近畿産業衛生学会について

小泉幹事から推薦のあった京都大学中山健夫先生を学会長とすることを承認した。

(4) 本部理事会報告

圓藤理事(本部副理事長)から理事会議事次第に基

づいて、来年度から本学会演題抄録の事前査読を制度化、利益相反(COI)ガイドラインの策定などについての紹介があった。

(5) 地方会ニュースの発行状況とホームページの更新状況

中西幹事から9月15日原稿締め切り、10月15日発行に向けて順調に作業中であるとの報告があった。

(6) 「産業看護職実態調査」報告

大脇担当理事から、調査票を7月25日付で453通発送して以降の作業経過についての報告があった。

(7) 部会報告・研究会報告

近畿産業衛生学会優秀演題賞選考規程

第1条(目的)

近畿産業衛生学会で優れた演題を発表した者を表彰し、もって産業衛生活動の一層の進歩と発展を図ることを目的とする。

第2条(名称)

本賞は「近畿産業衛生学会優秀演題賞」と称する。

第3条(受賞資格)

当該年度の近畿産業衛生学会で一般演題の筆頭発表者として口演発表を行った者とする。

第4条(表彰演題数)

原則として1題とする。

第5条(選考方法)

- 1) 選考のために選考委員会を設置する。
- 2) 選考委員会委員長は当該年度の近畿産業衛生学会会長をもって充てる。
- 3) 選考委員会委員長は、学術担当理事と一般演題座長予定者の中から学会長が指名する者と構成する選考委員会を統括する。
- 4) 選考委員会は選考委員会委員長が招集し、受賞者の表彰終了をもって解散する。
- 5) 選考委員会は、一般演題発表用に提出された抄録原稿と当日の口演発表内容に基づき、表彰演題を決定する。
- 6) 選考結果は一般演題終了後、近畿地方会会長に速やかに文書で報告するものとする。

第6条(表彰)

近畿産業衛生学会当日、全ての一般演題の発表終了後に近畿地方会会長が行う。

第7条(規程の改廃)

規程の改廃は近畿地方会幹事会が行うものとする。

附則 本規程は2011年9月3日から施行する。

追悼 杉本 寛治 先生



嗚呼、まさに晴天の霹靂。なんと云うことか！6月23日夕刻、私は突然、奈落の底へ突き落されました。急性心筋梗塞だったとのこと。享年68才。あれ程までに、自らの健康にも留意し、殊に血管障害予防の啓発活動に取り組んできた君ではありませんか。一体、何が君をそれ程までに追いつめストレスをかけたのですか。確かに君の頭の回転の早さにはついてゆけなかったし、洞察力の鋭さに後ずさりもしたし、何よりも君の寛容さに甘えすぎではいきました。だからと云って突然に私達を見限ってしまうなんて、あまりにも理不尽です。

君は昭和43年大阪大学医学部卒業後、直ちに衛生学教室（主任教授：後藤稔先生）へ入局し、CS2中毒を研究課題の1つとして研鑽されました。この過程でCS2中毒にみられる網膜病変が、糖尿病性網膜症に類似しているとのことでその病態解明のため、私達が所属する第一内科（主任教授：阿部裕先生）、糖尿病研究室（主任：繁田幸男先生、後の滋賀医科大学第三内科教授）へ共同研究員として来られました。約1年間程でしたか、君はどれ程の成果を得たのか窺い知れませんが、私達は君に大きなインパクトを受けました。考え方、方法論が新鮮でした。その後各々の研究に専念したため、数年間は会うこともなく過ぎ、私が縁あって丸紅(株)へ産業医として出向する際、阿部教授のご指示で臨床家にもよく判る産業衛生に関する成書を編集することになりました。君の助力なくして成書はあり得ないと考え総編集をお願いした処、快諾してくれ「産業医ハンドブック」（南江堂）が誕生しました。大阪大学医学部衛生学助教授、大阪府立公衆衛生研究所部長の激務の中、以前と何1つ変わらない情熱と責任感の強さで、私達の願いを叶えてくれ版を重ねました。これを機に年下の君を師匠と呼ぶこととしました。君との思い出でもう1つの大きなことは、当時大阪府副医師会長、大阪産業保健推進センター所長平山正樹先生に、大阪に不可欠の産業衛生の専門家として君を紹介しましたが、すでに君は滋賀県医師会産業保健担当理事、滋賀産業保健推進センター所長として滋賀県に活動拠点を移して活躍中と知り、大いに落胆もしました。かくの如く、君をよく知っているようでその後の足跡を知らなかったのも事実です。ただ私は判らないことがあれば教えを乞う、弟子としての特権を乱用しながら、師匠の君が日本産業衛生学会理事、同学会専門医制度委員会委員長として活躍するのが誇らしく、嬉しくてたまらない気持ちでした。今となっては君が書き遺した、云い遺したものを少しずつ拾い集め、これを燈火として羅針盤を失った小舟を操ってゆくしかないのでしょうか。

羯諦羯諦波羅羯諦 波羅僧羯諦 菩提薩婆訶

(医) 起生会
岡田 章

会員の異動 (敬称略)

〈新入会員〉

吉田 誠	吉田医院
西村 明芳	KKCウエルネス彦根健診クリニック
藤本 牧子	パナソニック産業衛生科学センター
宮上 純子	(財) 近畿健康管理センター
瀧 俊彦	KKCウエルネスなんば健診クリニック
武田 聖子	新日鉄(株) 堺製鉄所
後北 桂子	J R西日本 健康増進センター
前田 節雄	近畿大学総合社会学部
小倉 由佳梨	財団法人 京都工場保健会
杉村 知美	パナソニック産業衛生科学センター
廣川 空美	梅花女子大学
近藤 純子	(株) 資生堂
岩本 朝梨	長瀬産業(株) 健康推進室
松村 澄子	パナソニック(株) HA社キッチンアプライアンス BU 加東健康管理室
中嶋 知恵	財団法人 京都工場保健会
赤松 祐子	明治安田生命健保組合 大阪診療所

〈再入会員〉

森田 潤	(社) 滋賀県歯科医師会
永松 恵美子	日本通運株式会社

編集後記

東北大震災から、半年が経過しましたが、復興への道のりは険しく、特に、福島原発事故後の対応については、天災というよりも、人災というべき状態となっています。原発施設から放射性物質が大量に撒き散らされ、人体への被爆が当初から危惧されていましたが、現実には、福島に住む子どもの甲状腺に内部被爆が高率に確認されました。

健康被害がない量であると、政府は説明しますが、長期的な健康被害については、誰にも分かりません。震災後の対策を決定する、日本のリーダーが、めまぐるしく交代し、この5年間で6人目が誕生したところですが、この6人目の人には、長期的な視野に立って、誰もが安心できる放射線対策を速やかに実行してほしいものです。(竹村)

編集委員 (五十音順)

大脇 多美代(編集責任)	
河合 俊夫	木村 隆
鈴木 純子	竹村 芳
中西 一郎(広報事務局)	宮下 和久
藤岡 滋典	